

ユメヒカリの刈取適期の判定基準							
[要約] <u>ユメヒカリの刈取適期の早限</u> は粉水分28%、黄褐色粉数比率70%、出穂期後積算気温840~880℃であり、 <u>晩限</u> は粉水分24%、黄褐色粉数比率87%、出穂期後積算気温980~1020℃である。							
筑後分場・普通作物研究室					連絡先	0944-32-1029	
部会名	農 産		専門	栽培	対象	稲 類	分類 普及

[背景・ねらい]

ユメヒカ리는刈り遅れにより品質が低下しやすく、刈取適期幅が狭いといわれている。このためユメヒカ리의品質向上を図るためには刈取適期を明確化し、刈り遅れを防止する必要がある。そこで、ユメヒカ리의刈取適期の判定基準を作成する。

[成果の内容・特徴]

①ユメヒカ리의刈取適期の判定基準は次のとおりである。

ユメヒカ리의刈取適期の判定基準

出穂期後積算気温		粉水分		黄褐色粉数歩合		粉水分1%の減少に対応する積算気温	刈取限界(成熟期からの日数)
早限	晩限	早限	晩限	早限	晩限		
℃	℃	%	%	%	%	℃	日
840~880	980~1020	28	24	70	87	40	-5 ~ +3

注) ①標準的な生育(㎡当り粉数3.0~3.2万粒)の場合。

②寡照条件では刈取適期の出穂期後積算気温は高くなる。

③粉水分1%の減少に対応する積算気温は、降雨の影響がない条件での値である。

[成果の活用面・留意点]

①水稲栽培技術指針に記載し、ユメヒカ리의収穫時期の判定に活用する。

②ユメヒカ리는出穂期後の日照条件により刈取適期の出穂期後積算気温が変動しやすく、このため積算気温、粉水分及び黄褐色粉数比率より総合的に判断する必要がある。

2 具体的データ

表1 各調査年の登熟期間の気象

調査年	1次期		出穂期後50日間	
	出穂期	積算気温	積算日照	時間
	月・日	℃		
平成元年	9・11	971 (99)	311(107)	
2年	9・6	1055(104)	256 (88)	
4年	9・8	1004(100)	332(115)	

注) ()内は平年比を示す。

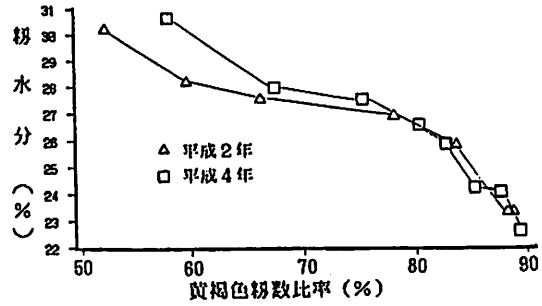


図1 黄褐色粉数比率と水分

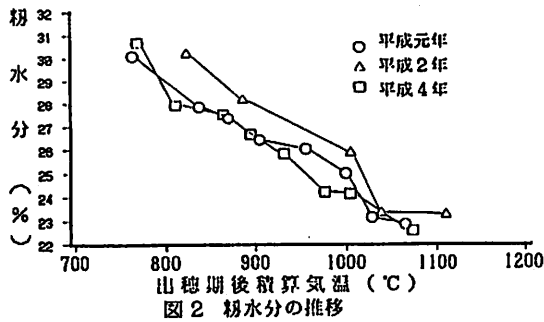


図2 水分の推移

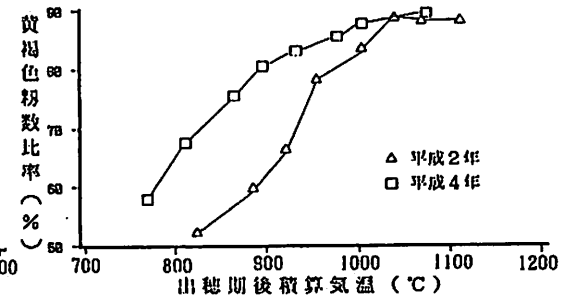


図3 黄褐色粉数比率の推移

表2 刈取時期と積算気温、水分、黄褐色粉数比率及び外観品質(平成4年)

刈取時期(月/日)	10/14	10/16	10/19	10/21	10/23	10/26	10/28	11/2
出穂期後積算気温(℃)	770	811	865	896	932	976	1004	1074
水分(%)	30.7	27.9	27.5	26.6	25.8	24.2	24.1	22.6
黄褐色粉数比率(%)	58	68	76	80	83	86	88	89
精玄米重歩合(%)	84	86	89	93	90	93	94	94
検査等級	2上	1中	2上	2上	2上	1下	2中	2中
青未熟米粒数比率(%)	13	5	9	4	3	1	2	0
うす茶米粒数比率(%)	3	4	6	9	12	11	21	22

注) ①成熟期は10月23日、㎡当り穂数は382本、㎡当り粉数は31,000粒であった。

②精玄米重歩合及び検査等級は、粒厚1.8mm以上の玄米についての値。

[その他]

研究課題名：新品種導入に関する栽培法

予算区分：経常

研究期間：平成4年度(平成1～4年)

研究担当者：松尾太、中村晋一郎、福島裕介

発表論文等：平成1～4年度筑後分場夏作試験成績概要書